

「人が生きる会社」をマネジメントビジョンに 全員参加型のCSRを追求してまいります。



「人が生きる会社」を マネジメントビジョンに据えて

シチズングループが純粋持株会社体制に移行して1年が経過した2008年4月1日に、私は梅原前社長から経営のバトンを引き継ぎました。社長就任にあたって、私は梅原前社長が掲げた「良質な会社」という目標をさらに推し進めるため、新たに「人が生きる会社」をマネジメントビジョンに掲げました。

「人が生きる会社」とは、端的に言えば“従業員が自分の力を存分に発揮でき、本人がそれを実感し、力を発揮した結果が確実に報われる仕組みや風土をもった会社”のことです。“従業員が幸せを感じられる会社”と言うこともできるでしょう。

言うまでもなく、経営の目的であり本質は、継続的に企業価値を向上させていくことです。これを叶えることができれば、さまざまなステークホルダーに報いることができ、持続可能な地球社会づくりを推進することができます。この目的と多様なステークホルダーの願いが合致するように工夫していくことが、これからの経営に強く求められていると思います。

そのなかで私が“従業員の幸せ”を重視するのは、ここ数年、多くの日本企業が行ってきた構造改革は、従業員に説明が十分に伝わっていなかったのではないかと思うからです。構造改革は、会社を強くして企業価値を高めるためのものです。また、社会の変化の速度に素早く反応する強固な体質を磨いていくためのものです。このような状態を実現するためには、一人ひとりの従業員が、構造改革がなぜ必要であるかという認識と自覚をもち行動すること、そして会社は個々の行動を正当に評価するという信頼関係を構築することが不可欠です。

「人」という原点に戻り、「人が生きる会社」をめざして、私は経営者として、世界のシチズングループ約24,000名に対して、「こうすれば良くなる」という考えや構想をきちんと発信しながら、一方で考えや立場の異なる従業員の声にも耳を澄ませる、そんな双方向のコミュニケーションを図っていきたくと考えています。

人の意欲を高めることを基本に置いて、 強みを発揮していく

人の力を最大限に発揮しながら、継続的に企業価値を向上させていくために、私は、シチズンならではの強み——当社グループには、需要が比較的安定している時計事業から、景気の影響を受けやすい電子デバイスや工作機械事業まで、多種多様な事業がありますが、そのコア

にある時計から生まれた、人にやさしい超小型技術・超精密技術・低消費電力技術「Micro HumanTech」——を幅広い事業分野で最大限に活かしていくことに注力したいと考えています。

2007年度は、その一環として、事業ごとに推進していた開発体制から、グループ横断的な開発機能を強化する体制に変更しました。

こうして魅力ある技術・製品・サービスを次々と生み出すと同時に、そのすべてが世界での競争力をもつものなのかどうか、グループとしてのシナジーを見据えたものなのかどうかなどの観点を踏まえて、グループ各社で活発な議論を行い、製品開発力だけでなく、生産技術力、販売力も含めてポートフォリオ・バランスの見直しを図っていきます。

ステークホルダーに報いるために

こうして企業価値を高めながら、シチズングループは多様なステークホルダーに報いる会社であり続けたいと願っています。

株主の皆様には、連結当期純利益に対する配当と自己株式取得の合計額の比率を株主還元性向という指標に定め、2005年度以降3年から5年間の比率を30%以上とすることを基本方針にしており、ここ2年はその基準を大幅に上回る還元を実施することができました。

お客様には、当社グループが得意とする精密技術を活かしたシチズンらしい製品、きめ細かなサービスの提供によって高い満足度を提供していきたくと考えています。2007年度は、多機能ながら業界最薄の厚さ10mmを実現したデジタル歩数計を発売したほか、サービス面では、工作機械の性能を最大限に引き出していただくために実施したプログラミングスクールが大変喜ばれました。

サプライヤーとの良好な関係を築くことは、良質な商品を提供していくことに直結しています。そのため、シチズン

グループでは折を見てサプライヤーと積極的なコミュニケーションを図っていますが、近年はサプライヤーの社会的責任を踏まえた、いわゆるCSR調達も重要になっています。この点で、当社グループは部品メーカーでもあることから、その影響力の大きさを十分に自覚しつつ、自らの襟を正すことでサプライヤーの皆様の協力を得られるようにしていかなければなりません。

そして、地域社会に対しては、「我々が存在できるのは地域社会のおかげ」という認識をもってこれまで同様に貢献していきます。シチズングループは世界各地に拠点を有しており、ローカリティという意味での貢献の仕方はさまざまですが、共通する考えは「その地域で、一定の雇用を確保する」ことです。その上で、地域特性にマッチした社会貢献のあり方を考えていきたくと思います。

私は「人が生きる会社」づくりに全力を挙げていきます。そして、「人が生きる→有効な活動ができる→利益を生み出す→ステークホルダーに報いる」というサイクルをつくり、動かしていくために、「開かれた経営」「みんなで支える経営」を心がけていきます。我々が何をしようとしているか、経営層も従業員も同じ目線で語り続け、全員参加型CSRを追求しながら、成長シナリオを実現していきたくと思います。

「シチズングループ CSR報告書2008」がここに完成いたしました。皆様からのご意見・ご感想を頂戴できれば幸甚に存じます。今後ともシチズングループへのさらなるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2008年6月

シチズンホールディングス株式会社
代表取締役社長

金森 充行